

乳幼児を対象とする布絵本の制作とその教育的効用について

About the production and the education use of the cloth picture book which deals with the infant

水谷亜由美*・夫馬佳代子*

Mizutani Ayumi and Fuma Kayoko

*岐阜大学教育学部家政教育講座

1. はじめに

絵本は、幼児の世界を広げ、豊かな体験ができるものとして、重要な保育内容の位置づけがなされている。布絵本に関する先行研究は多数見られるが、特に布絵本の制作普及に力をいれている団体の1つとして、ふきのとう文庫がある。この先行研究¹⁾からは、布絵本の特徴としてぬくもりのある布からできていること、愛情あふれる手作りが基本であること、遊びの条件を満たすおもちゃであることを挙げて、精神的、身体的、知的に大きな効用をもつ可能性を示唆している。さらに、幼児一人一人の発達には個人差があり、活用する場面や目的に応じて要求される効用は異なることも指摘されている。

しかし、こうした観点から布絵本の教育的効用について追究した研究への取り組みは、管見の及ぶ限りではまだ少ないのが現状と思われる。

そこで、より積極的に幼児の発達に適した布絵本の可能性を追究することを目的に、幼児それぞれの遊びを観察・分析し、その対象に合わせた布絵本の制作を試みた。さらに、個々に対応した布絵本の活用の様子を分析することにより、布絵本の教育的効用とその可能性を探ることを試みた。その結果、若干の考察を得たので報告する。

2. 研究方法

(1) 研究手順

研究手順を図1に示す。図1に示すように、まず対象とする幼児の生活や遊びの様子について事前観察を行い、その結果を考察分析する。さらに分析結果をもとに、その幼児の発達段階

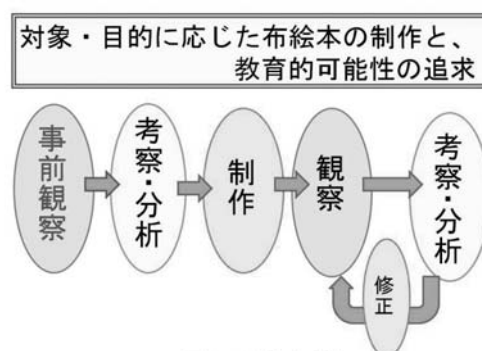


図1. 研究手順

で育てたい要素を取り入れた布絵本の構想を立案し、素材等を検討の上制作を行う。このようにして制作した布絵本を、対象とする幼児の遊ぶ場面に用い、遊ぶ様子について観察、考察、分析を試みる。このような子どもの活用実態の観察を繰り返し、布絵本の修正を加えることで、幼児により適した布絵本の開発を行う。

(2) 調査対象・時期

調査対象は、保育所A園と保育園B園の1歳児クラスと3歳児クラス、保育所A園における親子教室とする。事前観察は平成20年6月～8月に10回行い、制作後の実態調査は平成20年10月に8回行った。

3. 布絵本に関する先行研究

(1) 布絵本の教育的効用

日本の布絵本の普及に大きな影響を与えた団体の1つであるふきのとう文庫²⁾は、北海道にあるふきのとう子ども図書館を本部とし活動する財団法人である。障害児や病児を対象としている。1976年から布絵本制作を開始し、貸出しを行っている。この団体の研究報告からは、布絵本は障害が中程度以上の精神発達遅滞児に最

も効果的であることが明らかにされている。

ここでふきのとう文庫の先行研究をもとに、布絵本の効用を5つ抽出する。図2に示すように、具体的にみると、身体的発達、精神的発達、知的発達、基本的生活習慣の育成、コミュニケーションの教育的効用がある。



図2. 布絵本の教育的効用

(2) 対象に適した布絵本の可能性

表1に1歳児、3歳児、親子、障害児、病児の各対象の特徴と布絵本に期待される効用を示す。さらにそれを基にした実態調査の構想を図3に示す。

表1. 対象に適した布絵本の可能性

対象	特徴	期待される効用
1歳児	探索活動が活発化 外界への働きかけの増大 言葉を話す	自主性の育成・発語促進 手指の巧緻性(押す、引っ張る、しじる、たたく、つまむ、転がす、投げる、めくる)
3歳児	知的好奇心の増加 日常生活の自立 ごっこ遊びの増加	知識力の増加 日常生活習慣の育成 象徴機能・想像力の育成
親子	言葉・行動の模倣 言葉の繰り返し 安心感(情緒の安定)	発語促進・語彙力の増加 コミュニケーション能力の育成 親子の絆を深める
障害児	手や指が不器用 多動 知的障害	手指の巧緻性の発達 集中力・持続力の増加 知的好奇心の育成・概念の理解
病児	病気への不安 闘病生活での疲労・苦しみ 外界との接触が少ない	情緒の安定・治療への心の準備 楽しみの時間 外界との関わり(知識力の増加)

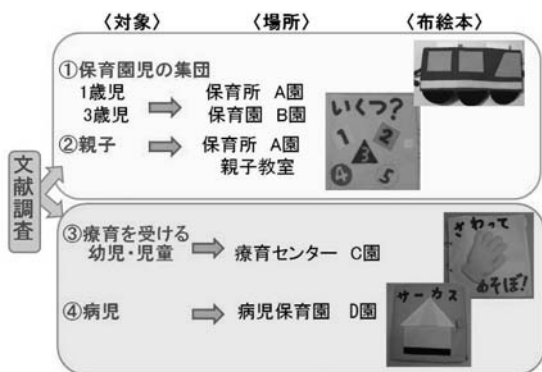


図3. 研究構想

表1から明らかのように、布絵本は幼児の年齢、発達段階、環境によって期待される効用は

異なる。そこで、図3のように対象と目的ごとに適した布絵本を制作し、実態調査を行うこととする。ここでは特に乳幼児を対象とする布絵本の制作とその教育的効用について述べる。

4. 乳幼児に適した布絵本の分析

乳幼児の発達特徴と、育てたい力を明確にするため、保育所保育指針³⁾を用いて各年齢の特徴と絵本に関する記述を図4のように抽出した。

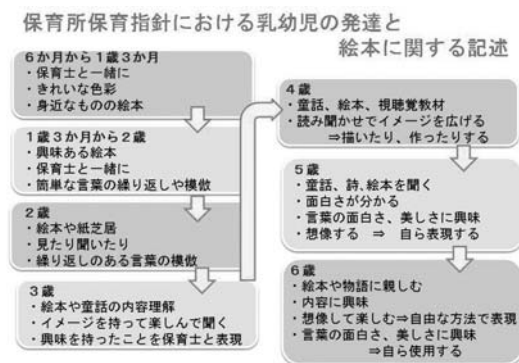


図4. 乳幼児の発達特徴

保育所保育指針の記述をもとに布絵本に期待される年齢ごとの効用を考察し、図5のように4つの段階に分類した。絵本の世界を楽しむことを根底に、五感の発達から探索活動促進や手指の巧緻性を高める段階へ、言葉の発達や模倣の段階を経て、知的好奇心や創造力の段階へと進んでいくと考えられる。

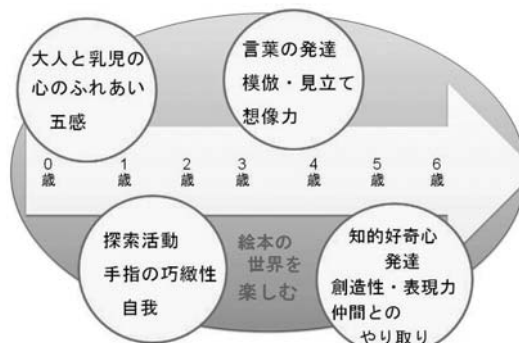


図5. 布絵本に期待される効用

5. 幼児の集団での活用に適した布絵本の構想と実践

(1) 保育園1歳児クラスを対象とした制作と実態調査

1歳児クラスにおける制作と実態調査の流れは図6のようなものである。

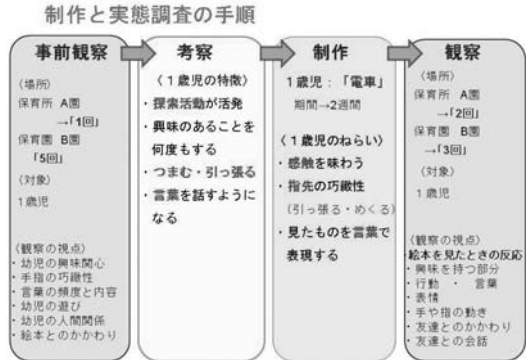


図6. 1歳児クラスを対象とした制作と実態調査

1) 1歳児クラスにおける事前観察の結果

保育所A園での1歳児の観察結果、保育園B園における4回の観察結果を基に1歳児の特徴を考察した。1歳児の発達特徴は表2のようになる。

表2. 保育所の観察結果による発達の特徴

年齢	1歳児
興味・関心	<ul style="list-style-type: none"> ○アンパンマン ○乗り物(電車・新幹線・飛行機・ヘリコプター・自動車) ○動物 ○いいないばあ・かくれんぼ ○かがみ
身体活動	<ul style="list-style-type: none"> ○自分で歩く・走る・泳ぐ ○音楽にあわせて体を動かす ○飛び跳ねる、走り回る、転がることを喜ぶ→全身運動が可能 <p style="text-align: right;">[全身の使用]</p>
手指の巧緻性	<ul style="list-style-type: none"> ○手をタッチする ○オレンジの皮をむく=引っ張る ○紐を引っ張る ○靴のマジックテープをとめる ○砂をスコップですくう ○スプーンを握って食べるが、しだいに手づかみで食べ始める ○スパケティをつまむ ○布をめくる ○スプーンで汁をすくう ○茶碗を持つ ○ブロックを2段に積み重ねたり、線路をつなぐ ○じょうろに水を入れ、水をかける ○自分で洋服の着脱をする→個人差が大きく、見守りと援助の程度は異なる <p style="text-align: right;">引っ張る・つまむ・めくる・すくう・持つ・重ねる・つなぐ</p>
ことば	<ul style="list-style-type: none"> ○「どうぞ」と言ってものを手渡す ○無言の子もいる ○絵本の絵を指さして、「飛行機」や「びよんびよん」と言う ○大人の言葉に反応してうなずいたり、首をふったりする ○「読んで」「着せて」と要求する ○「おいしいね。」と意思を表現したり、共感しようとする <p style="text-align: right;">物の名称・要求 思いの表現</p>
人間関係 友達	<ul style="list-style-type: none"> ○「どうぞ」と言ってものを手渡ししたり、もらったりのやり取りを楽しむ ○友達を行動をじっと見ている ○一方的なかかわりが多い ○友達同士のぶつかり合いが出てくる→強い子が弱い子に負ける ○友達を真似をする <p style="text-align: right;">友達を気にする・模倣</p>
人間関係 保護者・保育者	<ul style="list-style-type: none"> ○抱きつく ○大人の言動を模倣する・大人が子の言動を模倣する ○大人が代弁する ○そばにいて欲しいと要求する ○自分でできることに対して、援助を拒否する ○できないことはやってほしいと要求する <p style="text-align: right;">安心感を求める・言動の模倣・援助の要求と拒否</p>
精神発達	<ul style="list-style-type: none"> ○大人と一緒にいることで安心する ○自分の興味あること、好きなことが出てくる ○嫌いなものは拒絶する ○大人に甘える反面、援助を拒否して自分でやろうとする <p style="text-align: right;">好き嫌いの表現 大人への依存心と反抗心</p>
知的発達	<ul style="list-style-type: none"> ○見立て遊びをする ○自分のマークを覚えおり、自分の椅子を見つけてことができる ○自分のもの、他人のものとの区別ができる ○自分のことは自分でしようとする ○以前聞いた曲を記憶しており、自分の聞きたい曲をリクエストする <p style="text-align: right;">見立て遊び 記憶力増大</p>
絵本とのかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の好きな乗り物の本を持ってきて、読むよう要求する ○絵本のなかの気になる部分を指差す ○擬音語に喜ぶ ○「だ〜れだ」の本で、全体像が出てきたら、にっこりと笑う。「びよんびよん」と言って、ウサギであることに気づき、当てる姿がある ○布絵本の鏡を触ったり、覗き込んだりする。紐やゴムを引っ張る <p style="text-align: right;">指さし、擬音語への反応 好きな本の反復読み</p>

2) 布絵本の構想

1歳児を対象とする布絵本の構想を図7に、構想図を図8に示す。

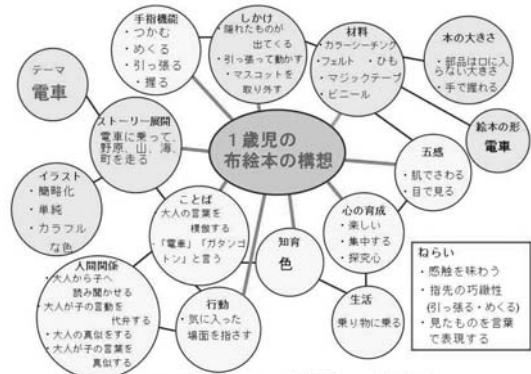


図7. 布絵本の構想 1歳児

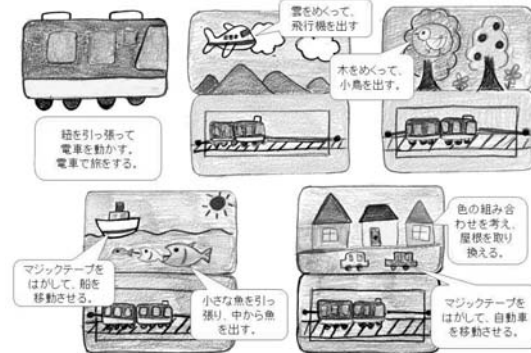


図8. 布絵本の構想図 「電車」

テーマは1歳児が最も興味を示していた乗り物の中から、電車を選択した。それは、電車の出てくる絵本を持って来て「読んで欲しい。」と要求する姿が多くみられたからである。絵本を読んでいる間も「電車。」と笑いながら指を指すなど、興味を持っていることが良く分かる。

ねらいとするのは、手指の巧緻性と発語の促進である。仕掛けは、「引っ張る」「めくる」を中心とする。各ページに「引っ張る」という同じ仕掛けを取り入れることで次の行動を予測しながら自主的に取り組めるようにした。「引っ張る」は1歳児がよく行っていた行為だが、紐をつまみ、握って引くという3つの行為を行い、指の器用さと握力に効果があると考えられたため取り入れた。「めくる」は1歳児の興味ある「いいないばあ」に結びつくと考えられる。隠れていたものを見つけ、めくる行為を楽しみながら行うことができるのではないかと考えた。発語の促進に関しては、1歳児の好きな電車や自動車、魚を取り入れることにより「電車」や

「ブーブー」などと発語することを期待する。保護者や保育士と一緒に活用する場合には大人の言葉を模倣することで語彙力が増加するのではないかと考えられる。

3) 「電車」の制作過程

「電車」は図9に示す手順で制作を行った。完成した「電車」は写真1に示す。なお、制作に際して、楽しく遊べる0～3歳 赤ちゃんの布おもちゃと布絵本⁴⁾を元に制作した。

材料

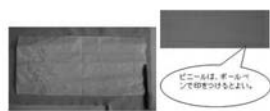
<p>※布類</p> <p>○カラーシーチング</p> <p>(赤色) 90cm幅×20cm</p> <p>(水色) 90cm幅×40cm</p> <p>(黄緑色) 90cm幅×20cm</p> <p>(青色) 90cm幅×20cm</p> <p>(グレー) 90cm幅×20cm</p> <p>○ビニール 8cm×30cm</p> <p>○パネロン芯(極厚ハード) 90cm×120cm</p> <p>○フェルト</p> <p>(白) 1枚 (黄緑) 1枚</p> <p>(赤) 2枚 (緑) 2枚</p> <p>(桃) 1枚 (水色) 1枚</p> <p>(黄) 2枚 (青) 1枚</p> <p>(橙) 1枚 (黒) 2枚</p> <p>(茶) 1枚</p>	<p>※付属品</p> <p>○パイアステープ (青) 160cm (緑) 80cm (グレー) 80cm</p> <p>○丸紐 (青) 124cm (緑) 124cm (ピンク) 60cm</p> <p>○ボタン (桃色) 5個 (黒・丸) 1個 (黒・平) 4個</p> <p>○マジックテープ</p>
--	---

図9-1. 材料

1. 型紙を作る



2. 布とパネロン芯は、型紙に合わせて印をつける。



3. 布とパネロン芯を裁断する。



4. 布とパネロン芯をアイロンで貼り合わせる。

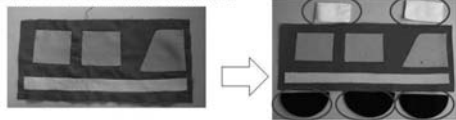


図9-2. 手順1

5. 各ページに部品を貼り付ける。

表紙

- ①布とフェルトを裁断する。
- ②本体にフェルトを縫い付けて模様を作る。
- ③同じ形、大きさのフェルトを重ね合わせ、まつり縫いする。一袋状になる。



裏表紙



図9-3 手順2

1ページ目

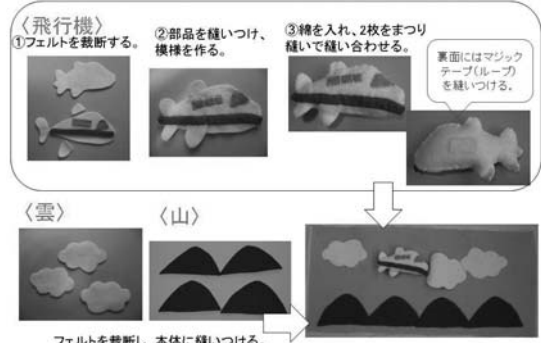


図9-4 手順3

2ページ目

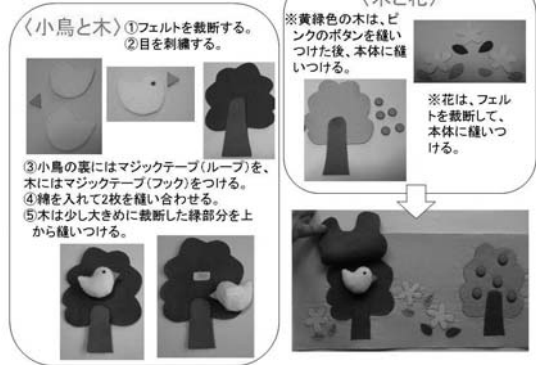


図9-5 手順4

3ページ目 〈本体〉

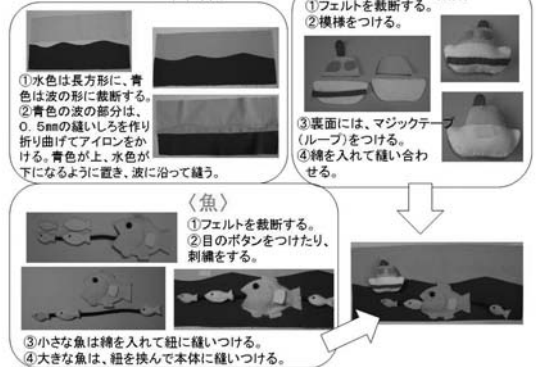


図9-6 手順5

4ページ目 〈本体〉

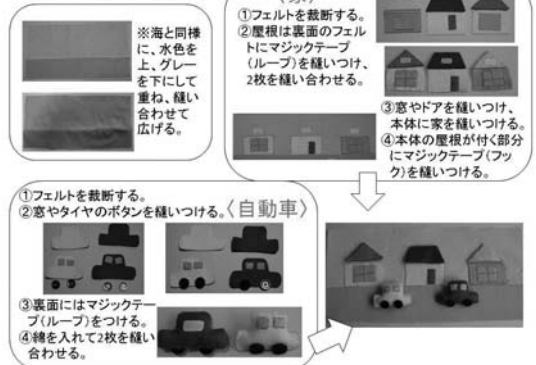


図9-7 手順6

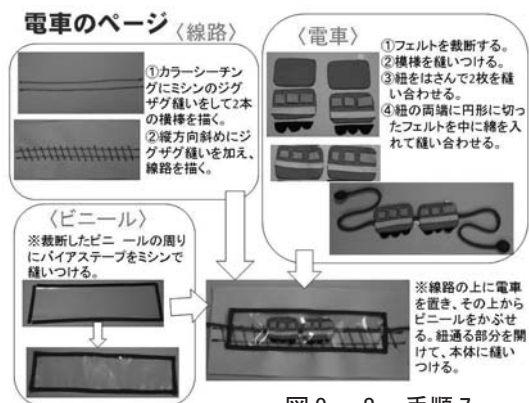


図9-8 手順7



図9-9 手順8

表紙



裏表紙



1ページ目



2ページ目



3ページ目



4ページ目



写真1. 完成した「電車」

4) 「電車」の仕掛け

「電車」の仕掛けを図10に示す。「電車」の特徴は、各ページに紐のついた電車がついており、引っ張って移動させる点である。「つまむ」「握る」「引く」手指の動きを行う目的で設置した。全部のページに同じ電車の仕掛けを取り入れることにより、自分が電車に乗って旅をしているイメージを想定しているからである。

また、探索行為を助長するため、めくるとマスコットが出てきたり、マジックテープをはがして移動することができる仕掛けを取り入れている。色への興味をねらいとし、4ページ目では屋根を入れ替える仕掛けを制作した。

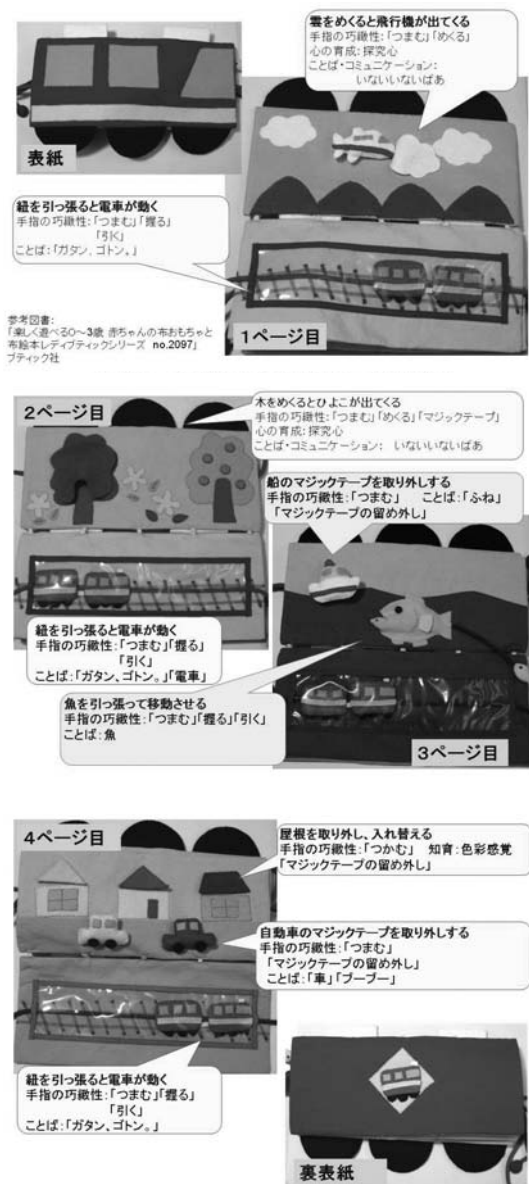


図10. 布絵本の仕掛け「電車」

5) 観察記録の事例

表3に1歳児クラスの一斉保育での活用事例を示す。

表3 保育所 観察記録

平成20年10月 保育園B園

幼児：0歳，1歳児クラス 男(2・4) 女(2)

布絵本の部位	幼児の行動・手指の動き	幼児のコミュニケーション
電車	絵本の表紙 ○F君が「バスバス」と言い、手を伸ばしてやりたがる。 ○Gちゃんが「きゃー」と悲鳴をあげる。 ○本を机上に置くと、F君が抱え込む。	○保育士が「みんな見て。あれなあに。」と声を掛けると、全員が布絵本の方に注目する。
電車	○F君が紐を引っ張る。 ○IちゃんとJ君も紐を引っ張る。 ○F君に対し、「ここを引っ張るよ」と言うが、違うページの紐を引っ張っている。	○保育士が「みんなで見よう。」と促すがなかなか放そうとしない。
ひよこ	○Iちゃんがひよこを見つけて取り外し、ずっと握っている。	
飛行機	○J君は、「飛行機、飛行機」と言う。	○私が飛行機を手渡すと、喜んで握る。
自動車	○K君は自動車を見つけて握っている。 ○保育士が絵本を手に取り、A君と一緒に見始める。 ○A君は紐を一方にだけ強く引っ張る。	○保育士が「もう引っ張れないよ。今度はこっち。」と交互に引っ張るよう教え、手を持って交互に引っ張る。しばらく一緒に引っ張っている。
飛行機	○F君はやりたそうにじっとA君と保育士のやり取りを見つめている。私にやりたいたいと訴える。	○A君と保育士の様子をじっと見ていたB君が、A君の持っていない方の紐を引っ張り始める。A君とB君の引っ張り合いになったため、保育士が順番に引き合うことを教える。
飛行機	○J君は、「飛行機」「フーン」と言いながら私の顔に近づけてくる。飛行機が飛んでいるかのように動かす。	
自動車	○K君は自動車を手に持ち、机上の上で走らせている。	
ひよこ	○Iちゃんはひよこを握ったまま放さない。	○保育士が「ひよこさんどこ行ったかな。」「Iちゃん、ひよこさんのおうちに帰ってあげよ。」と声を掛けるが、Iちゃんは「いや。」と首を振って放さない。ひよこをなでている。
自動車	○F君が机の下から自動車を拾って本体に貼り付ける。	○「自動車はどこに行ったかな?」と保育士が言うと、F君とJ君が机の下を覗き込んで探す。
ひよこ		○保育士がこたりの歌を歌いながら、「Iちゃん、ひよこさんバイバイしよう。」と本をIちゃんの目の前に置くと、「いや。」と言いながら、仕方なくつける。
	○Gちゃんはずっと周りの子が遊んでいる様子を見ていて、触ろうとはしなかった。	

6) 観察記録の分析と考察

1歳児クラスにおける観察記録の分析と考察の結果を図11に示す。

① 1歳児クラスで活用する際の効用

1歳児の活用においての効用は、探究心を助長し、自分から事物との関わりを求めに行く点である。まず、カラフルな色によって1歳児の目は引き付けられ、マスコットを隠す仕掛けや目の前にある紐によって積極的に手指を動かす

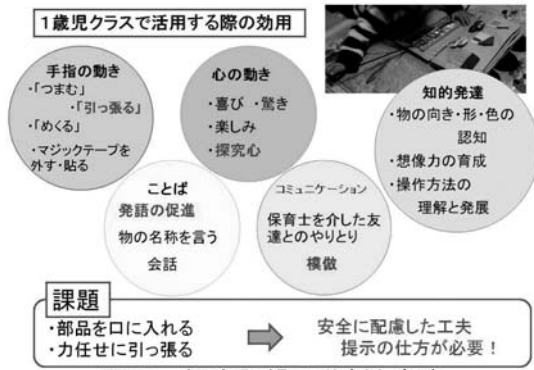


図11. 観察記録の分析と考察

て操作をする姿につながったと考えられる。紙の絵本とは異なり、自由にマスコットを移動させることができるため、「ブーブー」と言いながらマジックテープのついた自動車を動かしていた。その結果、「つまむ」「引っ張る」といった手指の動きや発語の促進につながる効用が明らかとなった。

② 1歳児クラスにおける課題点

1歳児は口にもものを入れて確認をする特徴がある。そのため、部品を口の中に入れて、くわえたりする姿が見られた。呑みこむことができないようマスコットは大きめに制作したが、誤って窒息する危険性を実感した。布絵本の部品の大きさ、素材の吟味が必要だと言える。また、1歳児は力の加減をして操作をすることができない。紐を力任せに引っ張ることで魚が引きちぎれる事例もあった。布絵本が壊れると危険も増大すると考えられるため、丈夫で安全なおもちゃであることの重要性が明らかとなった。

(2) 保育園3歳児クラスを対象とした制作と実態調査

3歳児クラスにおける制作と実態調査の流れは図12のようである。



図12. 3歳児クラスでの制作と実態調査

1) 3歳児クラスにおける事前観察の結果

保育所A園での3歳児の観察結果、保育園B園における5回の観察結果をもとに3歳児の特徴を考察した。3歳児の発達特徴は表4のようになる。

表4. 保育所の観察結果による発達の特徴

年齢	3歳児
興味・関心	<ul style="list-style-type: none"> ○昆虫 ○身体活動 ○キャラクター（プリキュア、ゴーオンジャー、アンパンマン） ○食べ物 ○お笑いタレント ○数字・文字 ○折り紙
身体活動	<ul style="list-style-type: none"> ○跳んだり、はねたり、駆け回ることを好む ○できることがうれしい ○少し難しいこと、危険なこと <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 全身運動・少し難しいことに挑戦 </div>
手指の巧緻性	<ul style="list-style-type: none"> ○自分で着替えをする ○ボタンを留める→個人差が大きい ○できるまで自分でやろうとする ○泥団子を作る（すくう、丸める、こねる、つぶさないように持つ） ○はさみで紙を切ることができる。→個人差が大きい ○のりを紙につけて貼り合わせることができる ○スプーンを正しくもつ→個人差が大きく、握るようにもつ子もいる ○はしを使って食べ物をつまむことができる→個人差が大きい ○ナフキンを折ったり、たたんだりする ○折り紙を折ることができる ○クレヨンで文字をなぞることができる ○数字を見て書くことは難しく、援助を要求する <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> すくう、丸める、こねる、つぶす、たたむ、つまむ、折る、張り合わせる、スプーン・箸の使用、なぞる、ボタンを留め外し </div>
ことば	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の気持ちを相手に伝えようとする ○ひらがなに興味を持っている ○自分の経験を伝えようとする ○質問をする ○子ども同士で理解をし、代弁することができる ○5歳児の言った言葉を模倣する <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 自分のことを話す 質問をする 文字への興味 </div>
人間関係 友達	<ul style="list-style-type: none"> ○平行遊び ○自己中心的で、友達の思いを聞くことが難しい ○友達と一緒にいることを楽しむ →仲間意識の芽生え ○友達に思いやりをもって接することができるようになる ○友達とけんかをする ○友達と同じことをしようとする→5歳児の行動を模倣する <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 自己中心的 仲間意識の芽生え 仲間との衝突 </div>
人間関係 保護者・保育士	<ul style="list-style-type: none"> ○自分を見て欲しい、共感して欲しいという欲求が強く、「見て。」と訴える ○自分でやろうとし、大人の干渉を嫌がる ○褒められると嬉しそうにする ○自分でできないことは大人に手伝ってもらいたいと要求する ○友達とのトラブルへの援助を要求する <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 認めて欲しい 援助の要求 干渉の拒否 </div>
精神発達	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の世界に没頭する ○自我が発達し、自分の意思が出てくる ○何でも自分でやろうとする ○じっと座っていることが難しい ○1つのことに集中する時間が短く、持続することが難しい ○少し難しいこともやってみたいと思う <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 自己中心的 自立心 チャレンジ精神 </div>
知的発達	<ul style="list-style-type: none"> ○ごっこ遊びをする（お店屋さん、ゴーレンジャー） ○見立てをする（ナフキン） ○善悪の判断がつきにくい ○数字を教えることができる ○未来のことを話すことができる <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 見立て・ごっこ遊び 数の知識 時間の感覚 </div>
絵本とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の好きな場面になると指を指したり、食いついて離れようとしにくい ○自分の好きなページだけを見ていようとする ○知っているストーリーは、「次はこうなる」と自慢げに話す ○読んでいる途中も、思い思いの話をしている ○自分を登場人物に重ね合わせて聞いている ○登場人物を評価する ○絵本の中の絵を実際にあるかの様にイメージする <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 好きな本・ページへのこだわり 登場人物と自己の投影 絵本の途中での会話 </div>

2) 布絵本の構想

3歳児を対象とした布絵本の構想を図13に、構想図を14に示す。

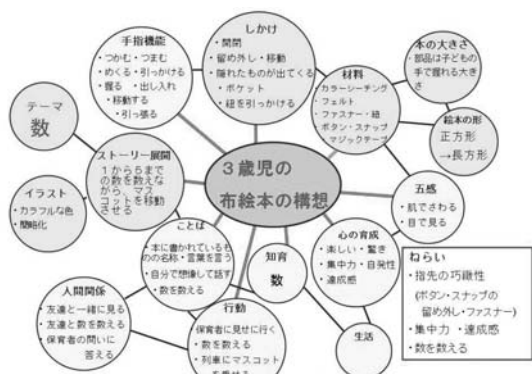


図13. 布絵本の構想 3歳児

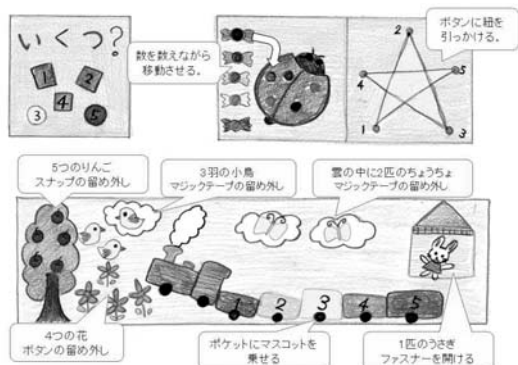


図14. 布絵本の構想図 「いくつ?」

3歳児は知的好奇心が高まる時期であり、ひらがなやカタカナ、数に興味を持つようになる。給食の挨拶の前に10を数える姿、遊びの中で物の数を数える姿が観察された。一斉保育において、数を数えたり数字を書く練習を行う場面もあり、3歳児の数字に対する興味と向上心の高まりが明らかとなった。従って、幼児が遊びの中で数字を活用し、楽しみながら覚えることができるようテーマを「数」と設定し、布絵本の中に数の要素を取り入れることとした。文字としての数字を取り入れるだけではなく、物の数を数えることができるようにすることで、日常生活の中で自然に数を使って生活することができるのではないかと考える。

ねらいは、指先の巧緻性(ボタン・スナップの留め外し・ファスナー)、集中力と達成感、数を数えることとする。手指の巧緻性を高めるために、ボタン、スナップ、紐、マジックテープ、ファスナーを仕掛けの中に取り入れ、遊び

ながら手指を動かすことができるようにした。これは、前述のとおり衣服の着脱が自分でできるようにする目的がある。そして、手指の操作を行う中で集中力と達成感を味わうことができるようにしたいと考える。テーマでもある数を数える行為では、1つずつ移動させながら1～5の数を数えることができる仕掛けを取り入れていく。布絵本がもつ移動することができる利点を生かし、自分の手で動かしながら数え、数の概念を理解できるようにした。自由にマスコットを動かす、自分の世界を広げて遊ぶ中で数を数える行為が生まれることを期待する。

3) 「いくつ?」の制作過程

「いくつ?」は図15に示す手順で制作を行った。⁵⁾ 完成した「いくつ?」は写真2に示す。

材料

※布類	※付属品
○カラーシーチング (水色) 90cm幅×25cm (黄緑色) 90cm幅×25cm	○丸紐 (桃色) 50cm ○毛糸 (桃色) 6cm (白色) 6cm (水色) 6cm ○ボタン (桃・星型) 5個 (黄・平) 4個 (黒・平) 13個
○パネロン芯(極厚ハード) 90cm×50cm	○スナップ 5個 ○ファスナー(緑) 1本 ○マジックテープ
○フェルト (白) 1枚 (黄緑) 2枚 (赤) 2枚 (緑) 1枚 (桃) 2枚 (水色) 1枚 (黄) 2枚 (青) 1枚 (橙) 1枚 (黒) 2枚 (茶) 1枚 (紫) 1枚	

図15-1 材料

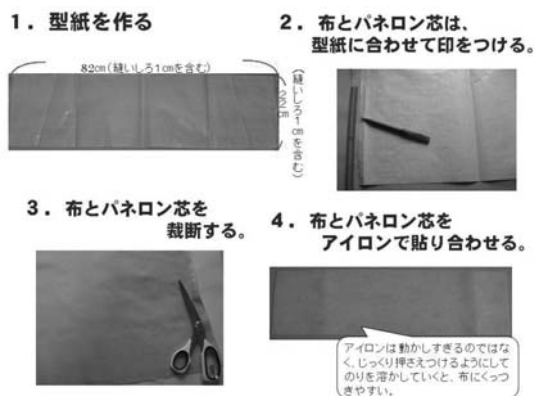


図15-2 製作手順 1

5. 各ページに部品を貼り付ける。

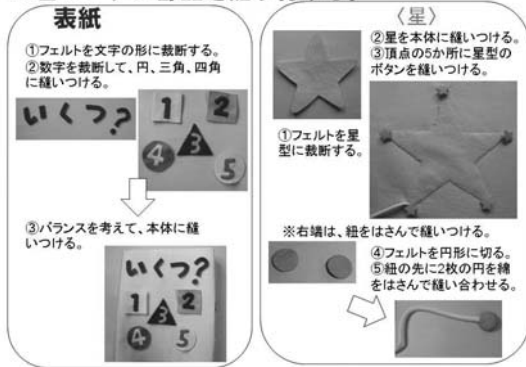


図15-3 製作手順2

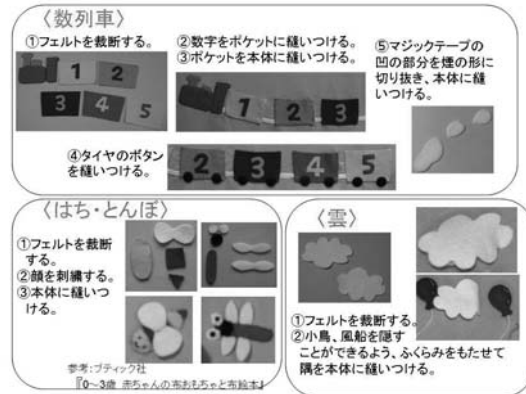


図15-7 製作手6

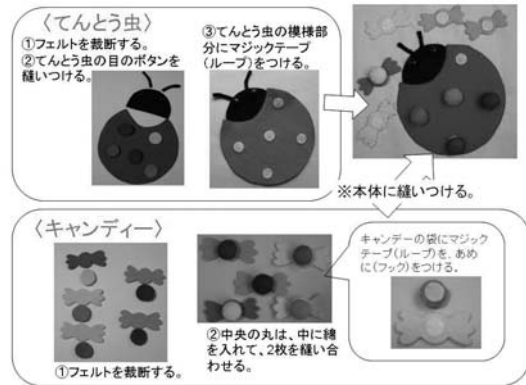


図15-4 製作手順3

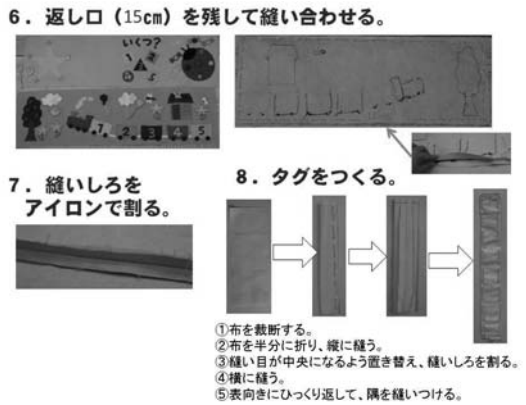


図15-8 製作手順7



図15-5 製作手順4



図15-9 製作手順8

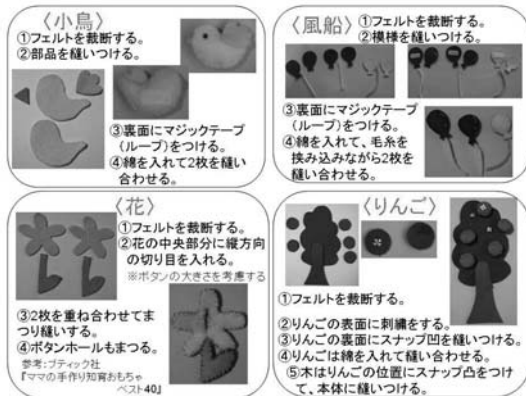


図15-6 製作手順5

表紙と裏表紙

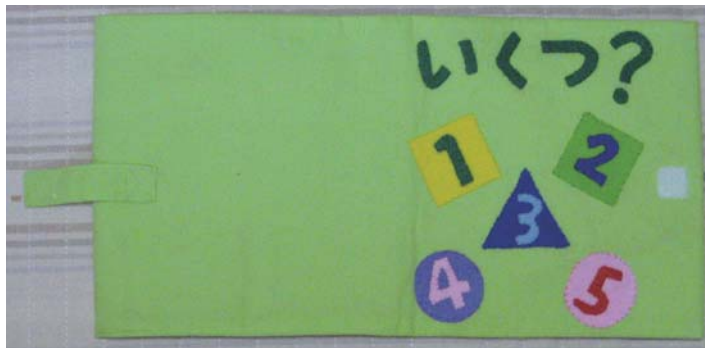


写真2. 完成した「いくつ?」

4) 「いくつ?」の仕掛け

「いくつ?」の仕掛けを図16に示す。

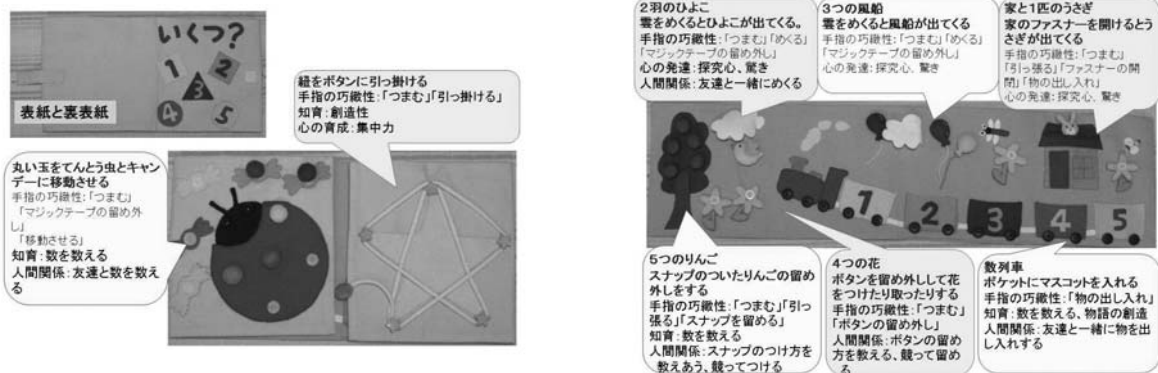


図16. 布絵本の仕掛け「いくつ?」

「いくつ？」では、各ページの中に数字や数を数える要素と手指を動かす要素を取り入れている。てんとう虫のページでは、丸い玉をてんとう虫からキャンディーに数を数えながら指先でつまんで動かすようにした。星のページは、5か所のボタンに紐を引っかけながら絵を描くことができるようにし、想像力にもつなげる意図がある。

また、ページを開けると一面が一つの絵になっている。1～5個のマスコットを自由に動かしながら自分のストーリーを展開することが可能になっている。マスコットを動かす際に、スナップ、ボタン、ファスナー、マジックテープの操作を行い、手指を遊びながら動かすことができるような仕掛けを取り入れた。

5) 観察記録の事例

表5に、自由保育における3歳児Q君、3歳児Nちゃん、5歳児Tちゃんの事例を示す。

6) 観察記録の分析と考察

3歳児クラスにおける観察記録の分析と考察の結果を図17に示す。

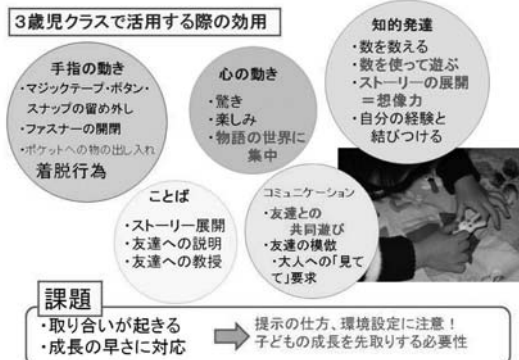


図17. 観察記録の分析と考察

① 3歳児クラスで活用する際の効用

3歳児クラスでの活用で特徴的であったことは、マスコットを動かしながら自分達でストーリーを展開し、自分たちの絵本の世界を作り上げていた点である。ストーリーを作り上げる際には、友達とのコミュニケーションも重要となり、友達に説明や教授をする姿や一緒に物語を考えてふくらませていく姿があった。布絵本には文字がなく、決まったストーリーが書かれていない。そのため、自分と友達とのやり取りの中で、毎回違った話を作り上げ想像力を膨らま

表5 保育所 観察記録

平成20年10月 保育園 B園

幼児：3歳児 Q君、3歳児 Nちゃん、5歳児 Tちゃん

布絵本の部位	幼児の行動・手指の動き	幼児のコミュニケーション
いくつ？	○Tちゃんが「いくつ？」の布絵本を持って床に広げる。	○Nちゃん、Q君も近づいてきて、「Nちゃんも。」「Q君もやる。」と言う。Tちゃんと一緒に遊び始める。
うさぎ	○Tちゃんが「ここにうさぎがあるよ。」と言って戸をドンドンとたたく。	○Nちゃんもドンドンと叩き、ファスナーをあけてうさぎを引っ張って取り出す。 ○Nちゃんは取り出したウサギを私に見せて、「見て！うさちゃん。」と言う。
列車・うさぎ	○Nちゃんがポケットにうさぎを入れる。	○Tちゃんが列車を指差して、「乗って、うさぎさん。」と言う。Nちゃんは、「私ピンクがいい。」と言って5番目のピンク色の列車のポケットにうさぎを入れる。
うさぎ・風船	○Tちゃんが3つの風船を取り外す。	○Tちゃんがうさぎに風船を渡そうとすると、Nちゃんがうさぎを動かしながら「私、ピンクの風船欲しいよ。」と言う。
風船・うさぎ・汽車	○Tちゃんが風船を「ふわふわ…」と言いながら空に浮かばせる真似をする。	○Nちゃんが風船を追ってうさぎを動かすと、Tちゃんが「汽車の中に入らないと。」と注意したため、Nちゃんはうさぎをポケットに戻す。 ○Tちゃんは、1周風船を飛ばさず真似をすると、「はい、どうぞ。」と言って手渡す。「入れといて。」と風船も一緒にポケットに入れるよう促す。
小鳥	○Tちゃんが「びよびよよ。」と言いながら小鳥を動かす。	
小鳥・列車	○Nちゃんが、「3」と言う。	○Nちゃんの声を聞いたTちゃんが「この子は3。」と言って、3のポケットに小鳥を入れる。 ○Q君が「1番に乗せたら。」と言うと、Tちゃんは「びよびよよ。」と言いながら、1のポケットに入れる。
りんご	○Tちゃんがりんごを取る。	○Q君は、「これ、貨物列車だよ。」とTちゃんに言う。
列車	○Tちゃんは、「しゅしゅ、ぼっぼ。」と言っている。	○「あれっ、子どもがいない。」とQ君は焦りだす。
列車・小鳥	○Tちゃんが「1が子ども、2がお母さん…」と言いつける。	○Q君は、Tちゃんの言葉を聞き、「1が子ども。」と言う。Tちゃんは「2は？」と聞くと、「お母さん。」と答える。
うさぎ・風船・家	○Nちゃんがうさぎを入れた家の中に、Q君が「青い風船入れよ。」と言って、青い風船を入れる。「ピンクにしよう。ふわふわっ。」と言ってピンク色の風船を持って空中に上げる。	
小鳥・列車		○Tちゃんがひよこを取る。Q君が「あれ、貨物列車なの。入れて。」と言う。Tちゃんは、「4が空いてる。」と言って、4のポケットに小鳥を入れる。 ○Tちゃんが2羽の小鳥を入れようとする。Q君が「ダメ、2個は。」と言う。
風船	○Q君は風船を手を持って、「ふわふわ、ふわーり。」と言っている。 ○Tちゃんは、「これは重いから飛ばない。これは軽いから飛ば。」と言っている。	○Nちゃんは私とTちゃんに「見て！空にも行った。」と風船が飛んでいく様子を再現する。 ○Tちゃんは、「見て。これは重いから落ちる。」と言い、風船を投げ上げて落ちる様子を見る。
うさぎ	○Nちゃんがやってきて、Q君とうさぎで遊び始めた。	
りんご	○Nちゃんは黙々とりんごのスナップをはめる。	
うさぎ・りんご	○Q君は「あのりんごが一番甘そう。」と言う。	○「これ？」「はい、どうぞ。」と言う。 ○Q君は、Nちゃんの言葉を受け、うさぎを動かしながら「はしごないの？取れないよ。りんごのおばさん。」と尋ねる。Nちゃんは、「ここからあがるといいよ。」と木登りを進める。そして、Q君がうさぎを木に沿って動かすと、「はい。」と言ってりんごを手渡した。
電車	○Nちゃんが、電車を引っ張る。	○P君は電車の動きにあわせて、うさぎをビニールの上から動かして、「電車で行こう。おうちに帰ろう。」と言う。

せることができたと言える。また、「リンゴは何個？」と尋ねられるとマスコットを動かしながら数を数えたり、「2のポケットにうさぎを入れて。」等と数字を使った会話が見られたことも知的発達に繋がる効用であると考えられる。

② 3歳児クラスにおける課題点

3歳児クラスでは、自分がやりたいという気持ちを持つ幼児が多い。一人で遊ぶ場面ではじっくりと一つ一つの仕掛けに取り組み、集中して遊ぶことができたが、5人程度の集団になると布絵本を取り合う場面が何度も見られた。そのため、集団の大きさや他の遊びとの関連、布絵本の提示の仕方等の環境設定が課題となった。友達とのコミュニケーションやごっこ遊びを目的とするならば2～3人の集団が好ましいが、ボタンやファスナーの操作にじっくりと取り組み、集中力を養う目的での活用ならば個別での提示が適しているのではないかと考えられる。

また、事前観察の時点ではボタンの操作を練習していた3歳児であったが、制作後の観察ではスムーズにボタンの操作を行うことができる幼児が多く、成長の早さに驚かされた。従って、幼児の成長の早さに対応し、次なる発達段階を見据えての制作を行う必要性が明らかとなった。

6. 親子教室における実態調査

親子教室における実態調査の流れは図18のようである。



図18. 親子教室を対象とした制作と実態調査

(1) 親子教室における事前観察の結果

1) 観察記録の事例

表6に2歳9ヶ月女児と2歳11ヶ月女児とその母親の事例を示す。

表6 親子教室観察記録

平成20年6月 保育所 A園

E 幼児：2歳9ヶ月女児

F 幼児：2歳11ヶ月女児

時間	活動	E保護者の発話・行動	E幼児の発話・行動	F保護者の発話・行動	F幼児の発話・行動
11:00	おやつ	「食べたね。えらいね。」と拍手をする 「もう一個食べる?」 Fちゃんを褒める 「Fちゃん、ちょうだい。」と急いで「そんないいよ。なんだから。」と苦笑 Eちゃんを褒める	嫌いなりんごを食べる 「食べる」と母親の分まで食べる お茶を一気に飲み終わる お茶を飲み終える「ちょうだい」とおかわりを要求する	Eちゃんに拍手をする 「りんご1口食べよ。Eちゃん食べてるよ。」と口元にりんごを持っていく 「おやつはお茶しかないよ。」 ※保育者がお茶のおかわりを持ってきた 「おかわりちょうだい?」 「よく言えたね。」と褒める	「いや」 絶対に食べようとしな 「おかわりをほしそ うにして いる」 「ちょうだい」
11:15	おやつ終了			「ありがとう」って返してきて。と促す。 返してこれたことを褒める	「ありがとう」とお皿とコップを保育者に返しに行く

2) 親子のコミュニケーションの特徴

親子のやり取りを分析した結果、親子での遊びには「楽しみの共有」が重要な要素となることが分かった。特に、親から子に発せられる会話には、幼児の言葉の反復や行動の言語化が多く、幼児の言動を認めながら一緒に感動を味わおうとする姿勢があると分かった。また、幼児の言動を繰り返すことで幼児が自分の言動を認識し、確かな知識や習慣になっていくことが分かった。さらに、母親の声かけには称賛、提案、注意、促進があるが、どの場合も幼児の行動の発達を願って行っていることが分かる。新たなことにチャレンジしてほしいとの願いから母親は遊びの提案や促進を行う。幼児の行動の善悪を知り、次からの行動につなげてほしいとの思いから注意と称賛を行っていると考えられるからである。布絵本においても、母親が遊びを促

し、様々な言動を行う中で幼児の言動を認めて感動を共有することが期待できると言える。

一方から親へのコミュニケーションでは、要求と模倣が特徴的であった。自分一人ではできないことを親に求める姿、母親や他の幼児が行っている行動を模倣している姿が観察できた。新たな事物、新たな課題に遭遇したとき、母親の行動が指針となり、幼児の行動につながっていくことが分かった。母親の言動を模倣・反復することにより、新たな知識や技術を覚え、身につけていくことができる。従って、布絵本においても母親の言動を模倣しながら仕掛けに取り組み、手先の動きや言葉を覚えていくことができるのではないかと考えられる。

親子教室においては、保育園での実践と同様「電車」と「いくつ？」の2冊を使用した。そのため、布絵本の制作過程と、布絵本の仕掛け説明は省略する。

(2) 親子教室における観察記録の事例

表7に、2歳2ヶ月男児の事例を示す。

(3) 観察記録の分析と考察

親子教室における観察記録の分析と考察の結果を図19に示す。

1) 親子で活用する際の特徴と布絵本の効用

親子で活用する際の1番の特徴は、母親が遊びのきっかけを作っていたことである。初めて見る布絵本に警戒する幼児の気持ちを引き付けるかの様に母親が楽しんで遊びだしたり、母親が触ってみよう促すことにより幼児が布絵本で遊ぶきっかけができたと考えられる。布絵本の特徴でもあるボタンやファスナー、マジックテープの仕掛けについても、母親がやり方を師範することで幼児は模倣をしながら自分で取り組むことができていた。普段は自分でスナップをはめることができない幼児であっても、母親に見守られる中で夢中になって遊び、自分でスナップをはめて母親を驚かさず場面も見られた。母親が近くに居るからこそ幼児は安心して遊ぶことができ、母親の教えを受けながら日常生活に結びつく手指の動きを行うことができることが明らかとなった。

表7 親子教室 観察記録

平成20年10月 保育所 A園
幼児：2歳2ヶ月男児

布絵本の部位	幼児の行動・手指の動き	幼児のコミュニケーション
電車	<ul style="list-style-type: none"> ○慎重に母が電車を引っばるのを見ている ○母に促されて、1ページ目を引っばってみる ○次のページからは、自分から引っばろうとする ○ビニールの中の電車をつかもうとする 	○母は「見て。電車だよ。」「すごいね。」と話しかけ、引っばるよう促す。母の問いかけに、慎重な顔をして恐る恐る引っばってみる。
飛行機	○雲をめくって、飛行機を見つけ出す	○母が「飛行機だね。」と言うと、飛行機を動かす。
鳥	○最初は鳥に興味を示さず、電車だけを動かしていた。しかし、母が次のページをめくると、思い出したかのように前のページに戻り、木をめくって鳥を見つけ出す	
いくつ？ 数列車 風船	<ul style="list-style-type: none"> ○風船をとって、列車のポケットにつめていく。外しては、入れるを繰り返す。 ○風船の位置を交換する。風船は、毛糸の部分を持つ。 	○風船の向きが逆さであったため、母が、「これ、違うんじゃない？」と問いかける。しかし、母の言葉はもう耳に入っていないようで、次の仕掛けを見ている。
りんご	○他の子が、りんごを取っているのを見て、手を伸ばし、りんごを取りに行く。	○母は、「ここにもあるよ。」と違うマスコットを指差すが、遠くにあるりんごを見つめ、取ろうとする。
〈全体として〉		
○木や雲をめくる行動、マジックテープを取り外す行動に興味を持っていた。	<ul style="list-style-type: none"> ○最初は母や友達する姿を見て、行動するが、次第に自分の意思で進んで遊ぶようになる。 ○黙々と黙って、電車を引っばったり、マジックテープをつけたり外したりしている。 	○最初は慎重で触るうか辞めようか迷っている姿が見られるが、母親が触るのを見て真似したり、促されて遊び始めた。

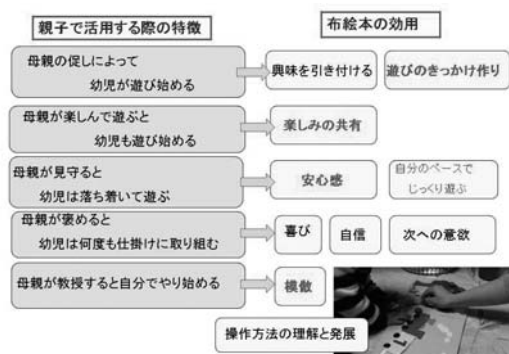


図19. 観察記録の分析と考察

2) 親子で活用する際の課題点

幼児が母親の働きかけによって遊びを展開し、効用を生む一方で、母親の概念や母親が示す遊び方に偏る傾向があると考えられる。今回の実態調査では、幼児の遊ぶ様子を見守る母親が多く、幼児の自主性が尊重されていた。しかし、幼児の遊びに母親が関わりすぎると、幼児が想像力を働かせて考えること、やり方を模索して試行錯誤する経験をするができなくなる可

可能性が考えられる。従って、親子で活用する際は幼児の自主性を尊重し、見守る姿勢と援助のバランスをうまく取る必要があると考える。

7. まとめ

布絵本の教育的効用の可能性を追究することを目的に、1歳児、3歳児、親子の3つを対象を絞り、布絵本の開発、制作とその活用実態の調査を行った。観察の結果、1歳児においては、布絵本の中に積極的に探索行為を助長する要素を取り込むことにより、「引っ張る」「めくる」行為が促進され、さらに「ブーブー」等の簡単な発語を促進することが効用として見られた。

3歳児においては、布絵本に数字や物語の展開の可能性のある場面を取り入れ、取り外し等自分の考えで場面が再構成される要素を意図的に組み入れることにより、友達とともに数字を用いて絵本の世界を展開し、想像力とコミュニケーション、数の概念に効用を生む様子が見られた。

親子の活用では、上記で用いた同一の布絵本を用いても、活用方法により布絵本を用いた遊びの様子が異なることが明らかとなった。特に母親の働きかけによって遊びの幅が広がり、親の支援を受けながら遊びの中で、生活の自立に結びつくボタンやスナップを繰り返しはめる行為が観察され、巧緻性の発達が促される側面も見られた。

以上のことから、布絵本は幼児にとっては布の持つやさしさに安心感が生まれ、さらに文字が無いことで自由に遊びが展開できること、日常生活に必要な手指の動きが取り入れられている等の利点を持つことが明らかとなった。全体的にこうした布絵本の特質を生かし、幼児は自由にマスコットを動かしながらストーリーを展開し、毎回違った楽しみ方をする姿が観察された点や、大人や友達の行動を模倣し着脱行為に必要なボタンやファスナーの操作を遊びの中で練習することができる点も布絵本の効用として挙げられることが明らかとなった。

一方で、布絵本の安全性、提示する環境の設定には課題が見られた。布絵本を安全に使用し、効用を高めるには、集団の場ではなく個々での

活用が適している側面も見られた。一人ひとりの発達に適した仕掛けを取り入れた布絵本を制作し、じっくりと取り組む環境を設定することで、布絵本の可能性はより広がっていくと考える。

なお、本研究の調査にご協力頂きました岐阜市立市橋保育所、岐阜大学保育園ほほえみの先生方に書面にて御礼申し上げます。

- 1) ふきのとう文庫：『手作り 布の絵本』偕成社 (1979年)
- 2) 早瀬伸子：障害児の遊具としての布の絵本—障害児の文化的側面へ福祉活動を続けるふきのとう文庫の活動の結実として— (1987)
- 3) 厚生省：『〈平成11年改定〉保育所保育指針』フレーベル館 (1999)
- 4) 内藤朗：『改訂版楽しく遊べる ～3歳赤ちゃんの布おもちゃと布絵本 レディブティックシリーズ no.2097』ブティック社 (2006)
- 5) ・よこはま布えほんぐるーぷ：『ちいさなまじよのぼうけん』ブティック社 (1989)
 - ・松村千恵：『フェルトで作るかわいいおもちゃ ブティック・ムックno.590』(2006)
 - ・内藤朗：『ママの手作り知育 おもちゃベスト40』ブティック社 (2004)